第10号

## 新潟に同志社法研の移動法律相談がやって来る

## 村木 昭司

同志社校友会・同窓会 会報

同志社大学法学研究会の移動法律相談会が初めて新 潟県内で開催されます。場所や日程等は同封のチラシ のとおりです。事前予約は不要で、当日の受付順に相 談を受けます。法学部の教授や OB の弁護士も多数同行 しており、相談に同席するので回答は的確です。もし、 ご家族や友人・知人等に法律問題でお困りの方がいらっ しゃれば、ぜひご案内してください。

なお、法律関係全般どんな相談にも応じますが、税 金問題、刑事事件、知的財産関係、企業間の問題およ び訴訟中の案件は受け付けできないので注意してくだ さい。

移動法律相談は、具体的には次のような手順で進め られます。

- ①受付:受付用紙に相談の概略を記入してもらい、相談者に 番号札を渡す。
- ②入室: 学生が番号を呼んで、相談者を相談室に案内する。
- ③予審:学生2~3人と先生(教授、弁護士、司法修習生) が相談内容を聴き取る。※時間制限を設けず、相談者ご自身 が納得するまで話を伺う。
- ④検討:別室で、学生と先生方が相談への回答を作成する。
- ⑤本審:相談者に学生が検討結果を報告する。

## 同志社大学法学研究会の移動法律相談ってなに?

法学研究会では、月に 1 度学内で一般市民を対象と した無料法律相談を実施しています。これを常設法律 相談(常相)と呼んでいます。この他に、大学の夏休 み期間を利用して、京都市外の市町村で年に一度、教 授や弁護士等の先生方も同行した大規模な無料法律相 談を実施しています。これを移動法律相談(移相)と 呼んでいます。移相は、前年から学生による実行委員 会を中心に準備が進められます。経費は大学や校友会、

同窓会などからの支援と OB などからの寄付金および 参加者の個人負担金で賄われます。

無料法律相談の開催趣旨は、一般の方々に手軽な法 律相談の場を提供するとともに、学生が机上の理論だ けでは理解できない実際の法律問題に触れ、法律への 理解を深めるということにあります。また、学生によ る法律相談として、時間制限を設けず相談者が自身で 納得するまで話を聴き、相談者の不安感が少しでも取 り除かれるように努めるということにも心がけていま

昨年度は長野県松本市と山梨県甲府市で実施されま した。学生約90名に神谷教授を始めとする7人の先 生と山田弁護士(愛知県弁護士会)など 12 人の弁護 十が同行して行われ、相談件数は、松本市が53件、 甲府市が59件だったとのことです。

今年は第61回目です。61年目にしてようやく新潟 県で開催することとなりました。昨年 12 月から実行 委員長の玉置さんや担当委員の人達が何度も来県して 一生懸命準備を進めています。当支部もできるだけの お手伝いをしています。新潟県では過去に移動法律相 談の実績がなく、同志社の知名度も北陸4県の中では 比較的低いという状況で、どれだけの相談者に来場い ただけるか不安であるとのことです。校友会・同窓会 の会員の皆様も、後輩達の活動が成功裏に終われるよ う、PR等にご協力をお願いします。(1978年法学部卒)



#### ◆編集後記 —

本会報は、支部活動の報告と会員相互の親睦を目的に 創刊したものですが、振り返ってみますと、会報を継続 して発行できたということは会員組織が確立しているこ との裏付けでもありますから、改めて同窓の絆というも のを実感した次第です。

この間、母校も大きく発展し、大学は社会のグローバ ル化に対応した総合大学としての完成度を一段と高め、 女子大も薬学や看護学部を開設して女子総合大学として 結実しました。今後の支部活動もこうした環境で学んだ

有為な人材を仲間に迎え、会員間の交流の輪がさらに広 がることを願い、会報もそのための一助となればと思い

会報も10号を重ね、創刊当初に内容や形式をどうする かや寄稿を誰に依頼するかなどを編集に携わった面々で 議論したことが懐かしく思い出されます。これまで快く 寄稿に応じてくださった方々にお礼申し上げますととも に、これからも皆様の会報として育ててくださるようお 願いいたします。(荒澤)



同志社校友会新潟県支部 同志社同窓会新潟支部(女子部)

発行人 河端信雄・篠田孝子

事務局 新潟ブレハブ工業(株)内 市川清 〒950-0911 新潟市中央区笹口 2-29 TEL 025(247)7117

 $E \times -J \nu$ : info@niigata.doshisha-alumni.org



2016 年度 同志社新潟のつどい (7月8日新潟市・ホテル イタリア軒)

## 2016年度 同志社新潟のつどいを開催

「2016年度同志社新潟のつどい」が7月8日(金) 新潟市内のホテル イタリア軒において、校友会・同 窓会員 48 名のほか京都から水谷理事長をはじめ 6 名の来賓を迎えて盛大に開催されました。今年から は校友会・同窓会合同総会の名称を「同志社新潟の つどい」とし、より参加しやすい雰囲気づくりに取 り組んでいます。

会は全員による賛美歌斉唱の後、水谷理事長の聖 書朗読と祈祷と続き、校友会および同窓会両支部長 の挨拶からは事業計画や予算などの総会議事を審議 し、すべて承認されました。引き続く式典では、水 谷理事長が創立 140 周年を数える両大学の近況を報 告、少子高齢化の進行する 21 世紀を支える有為の人 材育成に向け、これからも教育と研究の質を高めて いくと挨拶されました。

式典の後には新しい試みとして新潟で活躍されて

いる女子大音楽学科卒業のピアニスト石井玲子さん、 声楽家の平野佳恵さんによるジョイントコンサート が行われ、夕方の柔らかな光の差し込む室内に華麗 なピアノの調べと伸びやかなソプラノの歌声が響き 渡り、参加者一同、日常を忘れてゆったりとした時 間を過ごすことができました。

場所を変えての懇親会では、校友会の長谷川副会 長と同窓会の玉村会長が挨拶に立ち、お二人とも次 に控える同志社創立 150 周年を目指してそれぞれの 本部と各支部との絆を強め、オール同志社のさらな る発展に取り組みたいと話をされました。続いて校 友会石田顧問の乾杯で懇親会がスタートし、卒業年 次を交えた各テーブルでは学生時代や京都の思い出 話を肴に大きな盛り上がりがみられました。途中、 初めての参加者 9 人が自己紹介に立ち、それぞれが 学生生活や新潟との関わりなどについて語られた後 も宴は続き、テーブルを越えて次々と新しい交流の 輪が広がる中で、最期は恒例となった応援団 OB の相 田先輩のリードする同志社チアーを全員で唱和し今 年度のつどいを終了しました。

第 10 号



#### 髙津 もろみ

同志社同窓会新潟支部は、「会 員相互及び校友会との親睦を図 り、同窓会本部との関係を密接に して、母校及び同窓会の発展を助 ける」ことを目的として、1991(平

成 3) 年に発足されました。篠田孝子前会長は、発足以来、実に四半世紀の永きに亘り、その目的を果たす基盤を築いて来られました。篠田前会長はじめ役員の皆様方の、これまでの大変なご尽力に心から感謝申し上げます。

今、二代目会長の役を拝命し、その基盤の上で、同窓会のさらなる拡充と発展を目指すべく、精一杯取り組んで参りたいと、身の引き締まる思いです。

本部同窓会の中でも、新潟支部は比較的小さな規模で運営しております。発足当初より、校友会の皆様より多大なるご協力をいただきながら歩んで参りました。校友会において 2014 (平成 26) 年に立ち上げられた青年部には、同窓会も仲間に入れていただいております。支部活動の活性化に邁進される校友会の皆様と引

き続き連携させていただきながら、同窓会自体もさらに充実した組織体制にしていきたいと考えております。

人を自由にする学問として生まれた「リベラルアーツ」。私たち同窓生には、同志社のリベラルアーツ精神によって育まれたという共通項があります。自由な精神で学び、識り、伝え合うことの素晴らしさを卒業生同士で共有できる場が、同窓会にあると思います。

在学時に母校で培われた精神をエネルギー源として、社会で様々な形で貢献、ご活躍されていらっしゃると存じます。その力を母校に還元できるひとつの場として、同窓会が機能されたらと願っております。そのために、定例会合の他、会員同士が、深化したコミュニケーションを図れる場づくりが必要と感じております。

今年度より、新体制での出発となります。本部との密接な連携はもとより、会員皆様のご意見、ご要望をしっかりと受け止めながら、会員相互交流の魅力を味わっていただけるような企画も起こし、これまで以上に同窓会に興味を抱いていただけますよう努めて参りたいと存じます。皆様には積極的なご参画と、円滑な運営にご協力、ご支援賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。(1996年 学芸学部英文学科卒)

#### 懐かしい 25 年間

篠田 孝子

1991 (平成 3) 年に同窓会新潟支部が結成されてから早いもので25年の月日が流れました。年1回開催される総会でしかお会いしない懐かしい方々、そして様々な分野からお招きした講師の方による講演会の様子が走馬灯のように浮かんできます。一般市民向けに開催した講演会も人気があり多くの方が聴講してくださいました。これも校友会の方々の大きな力があってこそ成功したと感謝の念で一杯でした。

昨年の総会で申し上げましたが 25 周年という節目の 年でもありますし、ここで心機一転してマンネリズム からの脱皮を図り新鮮な風を吹かせて欲しいという思 いから今年度から新体制で支部活動を開始しました。

支部長は高津もろみさん、副支部長は青木久美江さん、会計は丸山綾子さん、会計監査は引き続き小島節

子さんにやっていただきます。幹事には小島さん、そ して篠田が微力ながらお手伝いさせていただきます。

これからも本部との連絡を密に、そして今まで通り 校友会と協力し合って活動し同窓会新潟支部を盛り上 げていって欲しいと願っています。今まで長い間、支 えていただき本当にありがとうございました。

(1971年 学芸学部英文学科卒)



# 新潟県支部 創立80周年に向けて

#### 幹事長 今井 誠

そもそも周年のお話は、昨年 10 月立命館大学新潟県 校友会創立 50 周年記念式典のご案内をいただいたとこ ろから始まりました。「一体、我々の校友会は、いつ創 立されたのか」と。

現在の幹事さんたちが現役学生の時、1962(昭和37)年以降1974(昭和49)年までに4回、新潟でグリークラブの公演会を開催した際、すでに新潟の校友会が存在しチケット販売にご尽力をいただいたことは解ったのですが、創立時期は不明だったため校友会本部へ調査を依頼することとなりました。

そして今年 2 月、校友会本部より調査結果の報告が あり、1940 (昭和 15) 年 11 月創立、初代支部長は島

本欣爾先輩(1930年・高商卒) と判明しました。その後2代 目の高橋牧師以降4代目の春 名牧師まで新潟教会牧師の方 に支部長をお願いし、5代目 は現在顧問の石田瑞穂氏に務 めていただきました。現在の 河端支部長は6代目として平 成20年に就任いただいており ます。



本部から送られてきた同志社校友會便覧 (昭和 15年)

さて、1940 (昭和 15) 年から起算しますと、我々の校友会は2020 (平成32) 年に80周年を迎えることとなります。そこで今から周年事業を企画することといたしました。そして、これからの校友会活動をさらに活発化させるためには、若い方から周年事業の企画のみならず、運営もお願いしたいとの結論に至りました。その後、現在の青年部に新しい幹事さんを増やしたいとの思いから、現在の役員の方が働き掛けたところ、以下の10名の皆さんより幹事就任のご了解をいただきました。

今後、現在の幹事さん 9 名と一緒に、周年事業の具体化や専門部制導入・規定見直し等検討の他、役員交代も実施する予定にしております。校友会活動が益々活性化いたしますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。(1975年法学部卒)

【現在の青年部】部長:本間健二氏(97文)、副部長:富永広紀氏(98文) 【新任幹事】佐藤俊次氏(88文)、宮腰知博氏(91法)、本間金一郎 氏(91法)、未崎秀和氏(92商)、小嶋能憲氏(94法)、山崎 真氏(94商)、 小林雄介氏(95文)、田中正人氏(00工)、戸枝若菜氏(05文)、鈴 木寛子氏(07文)

#### 平成28年度 会計報告 (平成28年4月1日~平成29年3月31日)

収入の部	金 額	支出の部	金額
		会報	
前年度繰越金	623,668	印刷	21,600
		デザイン	5,000
		事務	
年会費	180,000	振込手数料	8,836
		総会·交流会案内送付	47,748
		雑費	10,281
総会		総会	
総会·懇親会参加費	245,000	懇親会	285,000
お祝い金	60,000	来賓謝礼	20,169
助成金		諸活動	
支部活動助成金	10,000	校友会石川支部参加	8,000
"	131,200	1日県人会協力	7,110
		シニアクラブ懇親会	10,000
		立命館50周年式典	20,000
その他		会議	
熊本地震義捐金	29,290	幹事会·青年部会	126,800
熊本地震Tシャツ協力金	10,500	会報編集会議	5,700
		その他	
		熊本地震義捐金	35,000
		熊本地震Tシャツ協力金	15,000
		次年度繰越金	663,414
슴 計	1,289,658	合 計	1,289,658

\*2017年度総会にて報告予定

## はじめまして



大坂秀二さん ビジネス日本語教師

(1974年 商学部卒)

現在、新潟女池と大宮の二重生活。総合商社をリタイヤし、第二の人生はビジネス専門学校で留学生を教えております。学生時代同志社新潟県人会の活動でグリークラブのチケット売りや EVE 祭の笹団子売りで走り回ったのが思い出です!



本間金一郎さん 新潟市役所 (1991年 経済学部卒)

皆さんはじめまして。同志社を卒業後、新潟市役所で勤務をしています。市役所でも関西で学生時代を過ごした職員の会に参加しています。今年から校友会にも仲間に入れていただきました。よろしくお願いいたします。



末崎秀和さん 新潟県庁

(1993年 商学部卒)

入学は 1987 年です。途中で退学し、横浜市職員を経て復学しました。簡単な書類一枚で再び受け入れてくれた同志社大学の懐の深さに感謝しています。県庁では企業誘致の仕事が長く、同志社人脈のお世話になっています。



好岡純也さん 朝日生命 新潟支社 (1994年 商学部卒)

昨年 4 月に単身赴任で新潟に参りました。学生時代は陸上競技部に所属しており、今より 10kg 程スリムでしたが、今は運動不足のおかげで見る影もないといった感じです。皆様にお会いできることを楽しみにしております。



稲山陽子さん NHK 新潟放送局 報道カメラマン (2006 年 経済学部卒)

愛知県出身で 4 年前に新潟に赴任してきました。初めての雪国生活にも慣れ、お米はコシヒカリ!お酒は淡麗辛口!すっかり大好きな町になりました。久々に母校の話ができるのを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いします。



五十嵐 亮さん 弁護士法人新潟第一法律事務所 理事 弁護士 (2008 年 法科大学院修了)

新潟市出身で、長岡市に勤務して 8 年目になります。法科大学院から同志社にお世話になりました。当時は受験勉強漬けでしたが、鴨川や京都御所を散歩したり、アパート近くの銭湯に通ったのは良い思い出です。よろしくお願いいたします。



長谷川伸樹さん 弁護士法人新潟第一法律事務所 弁護士 (2011年 法学部法律学科卒)

卒業後は神戸大学法科大学院に入学し、昨年 1 月より弁護士として稼働しております。今年は法学研究会の法律相談会が新潟で開かれることとなるそうで、微力ながらそのお手伝いをさせていただければと考えております。